

もりふれ倶楽部通信 NO. 12

ヌメリイグチ（担子菌類 いぐち科 食用茸）について

特定非営利活動法人もりふれ倶楽部

理事長 槇原 道夫

40 近くの体温より高い熱波と大水、地球温暖化による異常気象が恐怖を伴って襲い掛かってきます。9月も10日を過ぎるとさすがに朝夕は若干しのぎやすさを感じるようになりましたが、日中は相変わらず酷暑が続いています。

しかし、自然は異常気象による人々の混乱をよそに ススキに穂を出させ、コスモスに花を咲かせます。植物の多くが日照時間の長短（光周期）により開花させるしくみは地球の公転等 天変 が無い限り永遠に続く現象であり、生命連続の摂理の偉大さを痛感します。

そして今年もいろいろなキノコが、ここ穴道の森にも姿を見せ始めました。食通にはこたえられない「キノコ狩り」の季節到来です。キノコ(子実体)は有性生殖に関わる孢子(花粉 = 小孢子。胚のう細胞 = 大孢子)を作りますから、種子植物では花に相当するものです。

そこで、身近な食用茸のヌメリイグチについて少し勉強しました。

- * 真菌類：栄養体は殆どのものが菌糸（細胞壁がキチン質よりなる円筒形の細胞がー列につながったもの）よりなり従属栄養（クロロフィルを持たず光合成が出来ない）のいわゆるカビの仲間のことです。孢子によって繁殖しますが、孢子の仕方により「子のう菌類」と「担子菌類」とに分類されます。
- * 担子菌類：菌糸が集まって塊(子実体 = きのこと)をつくり、各菌糸の先端の担子器と呼ばれる構造に担子孢子をつくります。単純に顕著なキノコを作る仲間です。
- * イグチ科：キノコのかさの裏側が管孔(スポンジ状)になる仲間で、多くが食べられます。初夏～秋にアカマツ林、カラマツ林、アカマツ等の散在する雑木林等に発生します。殆どのものが 外生菌根性(菌根菌)です。
- * ヌメリイグチ：傘は初め半球形、後に平たく開きます。表面の色は赤褐色～暗褐色で著しくぬめりがあり、径4cm～15cmの大形のキノコです。傘の裏は黄色で、管孔は放射状配列(網の目状)です。柄(茎)は淡黄色で表面に黄色の細かい斑点があります。

また、紫色を帯びた膜状の つば をもっています。

若いキノコは 和え物、酢の物、オムレツ等に、大きなものは鍋物、味噌汁等に良いようです。とにかくぬめりがあって舌触りに優れるのが特徴です。

夏～秋に若いアカマツ林に良く発生するようです。ヌメリイグチは赤松の根に共生してアカマツの成長を促進します。ちなみに少し発達したアカマツ林にはマツタケが出てくるようです。

アカマツ林を再生させる特効薬になりそうな「菌根菌」について

菌根:菌類が樹の根を被って菌類とその樹が共生生活をするようになったものを指します。菌糸が根の表面を被い、また細胞間隙に侵入して親木との間で物質のやり取りが行われる共生関係にあるものを外生菌根樹、外生菌根菌といいます。

マツ科の他にブナ科、カバノキ科等にも見られるそうです。

菌根を作ることにより、根の病害の防御、無機塩類等の養分や水分の吸収が促進されます。即ち菌根は土中の栄養塩類が乏しい環境で樹木が生活する能力を高め、さらに乾燥に対応する能力も高める働きをすると考えられます。

アカマツは尾根筋等乾燥した やせ地を好んではえる傾向がある樹です。そのような環境に耐える能力は、きっと菌根菌のお蔭であると考えても差し支えないような気がします。ちなみに、土壌が肥沃なところでは菌根の発達が悪くなるという研究報告もあるそうです。

したがって、アカマツ林の再生は土壌中に落ち葉等の有機物が蓄積されること無くやせ地の状態が維持されることと、菌根菌が繁殖できる条件(それがどんなものであるか十分に分からない)を整えることであるようです。

里山に以前のアカマツ林を再生するにはマツノマダラカミキリとマツノザイセンチュウの駆除、いわゆる松枯れ病の伝染をなくすこと、あるいは抵抗性松を作ることが一番であることは申すまでもありませんが、広葉の落ち葉や雑草に覆われ富栄養化している土壌を、落ち葉かき等を絶えず行い貧栄養の環境を維持すること、ヌメリイグチのような菌根菌の胞子をばら撒き、菌根の発育を促すことが松の病害に対する抵抗性を増し、松枯れ現象にも打ち勝つ美林を作り出す方策であるのではないのでしょうか。

やはり尾根筋にはアカマツが良く似合い、風情有ります。

平成19年度 もりふれ倶楽部の歩み

7月21日 第2回小山地区森林ボランティア

チェーンソー仕事の基本を確認し、心ゆくまで間伐しました。

メンバー 坂本英希、福代美保、松本尚子、野田真幹

7月22日 学習館ボランティア

「ストーンアート」

学習展示館来館者の希望者に、ストーンアートを体験してもらいました。

指導 野田あや子

7月28日 第4回里山子ども自然塾

「親子で夜の探検」

親子で、森の中に事前に仕掛けたわなにどんな虫がいるのか探しに行ったり、展望広場から天体望遠鏡を使って、月のクレーターや木星を見たりして楽しみました。

講師 竹下健二 スタッフ 神門繁雄、松本隆、戸山敬子、宮崎徳子



7月29日 森林ボランティア「ボランティアの夏休み」

奥出雲町上阿井福原で、昨年6月穴道湖中海ラムサール条約登録を記念して植樹した樹木の下刈りをしました。とってもいい汗をかいた後、スギの皮で和紙づくり体験やネイチャーゲームをして森の自然を満喫しました。

スタッフ 岡田、響、横田(和)、横田(典)、遠藤(文)、遠藤(正)、吉廣、内田、神門、松本(尚)、福岡、角、野田

7月29日 学習館ボランティア

「木の輪切りで動物や昆虫づくり」

学習展示館来館者を対象に、いろいろな大きさの木の輪切りを組み合わせで動物作りを体験してもらいました。

指導 岩崎鈴江、野田あや子

8月4日・25日 県民の森オープン講座

県民の森を訪れた方たちに、「竹のペイント」「ネイチャーゲーム」「石のペイント」「木登り」等の体験をしてもらいました。

指導 三重野三義、角田祐子、妹尾明美、遠藤正資、野田真幹



8月5日 第5回里山自然塾

「間伐丸太で動物をつくろう」

間伐の大切さやスギの生態の話の聞いたり、森の大切さを描いた紙芝居の鑑賞をした後、森林ボランティア活動で間伐したスギの丸太をそのまま活かして、イノシシやイヌなどの動物の置物を作りました。

講師 岡田邦博 ボランティア 中村正志、神門繁雄、榎原道夫、坂本英希、正木勉、木村京子

8月5日～12日 夏休み特別企画「夏の森林公園はカブトムシのパラダイス」

学習展示館に来られた親子を対象に、ふるさと森林公園散策地図とアンケートを受け取ってもらい、散策地図を参考に2つの自然探検ビンゴゲームを回答してもらい、抽選くじで、カブトムシ、竹の万華鏡、スギの皮の和紙のしおり等のプレゼントを受け取ってもらいました。

8月11日 県民の森サマーフェスティバル

県民の森サマーフェスティバル参加者に、「山仕事体験」「苔玉づくり」「竹細工」「火興し」等の体験をしてもらいました。ステージで、丸太切り競争も行いました。

指導 榎原道夫、岡田邦博、伊原千里、真田寿美子、三上晃生、遠藤正資、福代美保、野田真幹



8月11日 第5回里山子ども自然塾

「ブックスタンド作り」

杉板を使ってブックスタンド作りに挑戦しました。ノコギリで木を切ったり、金槌で釘を打ったりと難しかったけど完成したブックスタンドを見て「早く家に帰って本を並べたい！」と嬉しそうでした。

講師 寺本哲夫

スタッフ 神門繁雄、宮崎照、宮崎詠二、小山美津子、野口朱美、戸山敬子、宮崎徳子

8月17日 第6回里山子ども自然塾

「木の枝アート」

いろいろな大きさの木の輪切りを組み合わせて動物や虫を作りました。タコ、カエル、恐竜などたくさんの作品が出来ました。

講師 岩崎鈴江 スタッフ 布野智子、戸山敬子、宮崎徳子



8月19日 第3回里山自然塾サポーターズクラブ・公園ボランティア「いっしょに楽しみ隊」合同スキルアップ研修

「私の！写真の撮り方」

三瓶の自然を長年にわたり撮り続けてこられたプロの写真家林謙治郎さんに、さまざまな目的に応じた写真の撮り方や、自分の思いを込めた1枚の写真を撮ることの素晴らしさを、体験的に伝授してもらいました。

講師 林謙治郎

8月26日 里山職人体験

「木切れで動物づくり」

学習展示館来館者を対象に、いろいろな大きさの木の輪切りを組み合わせて動物作りを体験してもらいました。

指導 野田あや子

8月26日 学習館ボランティア

「ネイチャーゲーム」

学習展示館来館者を対象に、ネイチャーゲームを体験してもらいました。

指導 遠藤正資、倉田知恵



8月27日 斐川町教職員夏期研修会

斐川町教育委員会からの要請で、斐川町内の小学校の先生を対象に「苔玉づくり」と「自然体験活動」の体験指導を行いました。

指導 伊原千里、野田真幹

9月2日 第6回里山自然塾

「秋の里山を全身で感じてみよう」

初秋の里山の自然を様々な自然体験活動を通して、五感をフルに働かして全身で感じ、そのフィールドの動植物などについて自然解説も聞きました。癒される1日でした。

講師 遠藤正資、横田典子、槇原道夫

9月8日・9日 セラピーの森小屋づくり

飯南町上来島林地に「ヒノキの香りを楽しむセラピーの森」を育てて行くということで、その拠点となる小屋作りに挑戦しました。約30名のボランティアが合宿して取り組み、回りの壁以外は、完成しました。

指導 中村正志、竹田正彦、岡田邦博



9月9日 学習館ボランティア

「ストーンアート」

学習展示館来館者を対象に、ストーンアートを体験してもらいました。

指導 野田あや子

9月13日 まつえ市民大学講座

「森のすばらしさを体験しよう」

まつえ市民大学環境ガレッジ受講生の方65名を対象に、里山の現状の問題を考えてもらい、「五感を活かした自然体験」「スギの皮の和紙づくり体験」を楽しんでもらいました。

スタッフ 横田典子、角田祐子、野田真幹、宮崎徳子



9月下旬といえば暦の上では確かに秋のはずなのに今年のこの暑さはいかがなものか。連日30度以上の真夏日が続いています。いつまでこの夏は続くのかうんざりしてきます。それでも隠岐島の自然界ではしっかり秋が訪れてきたようです。自然村周辺のフィールドではクツワムシを代表とする秋のバッタ類が大合唱をしていますし、海士町の諏訪湾には早くもスズガモが飛来しましたし、夏鳥の渡りにも遭遇するようになりました。また、道端に目を向けるとそこには「秋の七草」が可憐な花をつけています。と言いたいところですが、残念ながら海士町の自生種だけでは「秋の七草」がそろいません。萩、葛、ススキ、撫子はかなり多く見られます。しかし、女郎花、藤袴、桔梗の自生種が見当たらないようです。そこで、私は自然村の来訪者にオリジナルの秋の七草を紹介することにしています。女郎花はオトコエシ・藤袴はヒヨドリバナ・桔梗はツリガネニンジンとゆうことでいかがでしょうか。

この夏の自然村を振りかえって見るに、実に多くの方たちとの出会いがありました。小学生の林間学校、中学生非行少年の自然体験、中高校生の科学実験を体験する合宿、大学生のゼミ合宿、学校教員の研修会などほとんど都市部からやってこられ、当施設に宿泊しながら自然体験を中心に隠岐にどっぷり浸っていただきました。みんなそれぞれの思いを胸に帰っていかれたと思いますが、受け入れ側としても新たな提案をもらった夏となりました。

東京から林間学校でやってきた低学年の小学生がこう語りました。「私はいつもけっこう我慢しているの。いい子でいようとして。学校でも家でもいい子だとみんな喜ぶから。」しかし、隠岐島に来た彼女はとてものびのびと過ごし、鎖を解き放たれた子犬のようにとても自由にみえました。



【地元小学生との自然体験】

今まで隠岐島の自然のすばらしさ、貴重さなどを自然体験の中で少しでも多くの人に伝えてゆくことが自分の職務だと思いエコツーリズム活動を推進してきたわけですが、離島の自然が持つ可能性や魅力は都会の中に生きる人たちの心のケアにも踏み込む力を持っているのかなと今考えるようになりました。自然の中で癒しを感じることは以前よりよく言われていることでした。しかし、そのような受身の自然体験からもう一步踏み出してみることで、すなわち疲れた心を受けとめる受け皿になることが都会に対する離島の自然がもつ役割のような気がします。隠岐自然村がスローガンと

ある女子大生はこう語りました。「都会に帰ると私の本音を話せる大人はいないの」と。しかしここで彼女は様々な悩みを語り、いつも考えていることをたくさん聞かせてくれました。

大都会からやってきた非行少年と呼ばれる中学生は後日電話でこう語ってくれました。「自分のダチもそこにいってみたいと言っているよ。」どうやら子供たちもかなり疲れているようです。

する『島だからできること』を実施していくうえでの今後の大きな目標が新たに見つかった2007年夏でした。

飯南町の森林セラピー（その2）

この春、森林セラピー基地®認定を受けた「県民の森」、研修館を拠点に小田川ルート、きのこ園、そして薬草園は中国山地の自然を四季折々、日々それぞれに訴えていきます。周辺には出雲風土記に登場する女亀山、琴引山等口マンに満ちた神話を感じる山々が静に人々を迎えてくれます。

意外と知られていないことですが江戸時代には世界遺産「石見銀山」の産銀は大森発3泊4日、飯南町「赤名」を經由、尾道まで陸送、その後瀬戸内を船で大坂、伏見まで送られました。銀運送にかりだされる過酷な「助郷」と言う制度に農民は苦しみました。

画像は赤名宿「銀山街道」1里松にある崩壊寸前であった古民家の茅葺屋根を修復し、土壁を塗りつつある様子です。手前が銀山街道（2007.9.13）



飯南町 三重野三義

三重野さんは、県民の森で、森林セラピーの担い手として御活躍中です。

事務局 野田

もりふれ倶楽部、今後の予定

10月6日（土）7日（日）全国雑木林会議で「里山放牧見学会を実施」

10月7日（日）9時 学習館ボランティア 中村正志氏と一緒にやりたい方先着2名募集

10月13日（土）10時 飯南町小屋壁張り 3名、お手伝いボランティア募集中

- 10月14日(日)10時 里山自然塾「秋の里山でキノコを探そう」参加者募集中
- 10月14日(日)16時 里山自然・子ども・森ボラ企画を語る会 参加者募集中
- 10月20日(土)9時 里山子ども自然塾「ドングリ工作」ボランティア募集中
- 10月21日(日)9時 アウトドアフェスタ「間伐ベンチ、竹の灯明、スギの和紙」
ボランティアスタッフ4名募集中
- 10月22日～25日 里山生活塾を実施
- 10月28日(日)10時 飯南町森林ボランティア「枝打ち、ピザ、小屋完成」
参加者、ボランティア募集中 ボランティアは9時集合
- 11月3日(土)10時 小山地区森林ボランティア ボランティア募集中
- 11月4日(日)10時 里山自然塾「晩秋の草木を学び、コケ玉にいけてみよう」
参加者募集中
- 11月10日(土)9時 里山子ども自然塾「木の実の標本」ボランティア募集中
- 11月11日(日)10時 飯南町森林ボランティア「間伐、ベンチ、焼き芋」
参加者、ボランティア募集中 ボランティアは9時集合
- 11月17日(土)14時 森林未来塾 飯南町「森林経営の補助制度、NPOとの協働視察」
森林所有者、所有希望者対象
- 11月18日(日)10時 奥出雲町森林ボランティア「間伐、ベンチ、森の総合芸術」
参加者、ボランティア募集中 ボランティアは9時集合
- 11月25日(日)10時 奥出雲町森林ボランティア「補植、森の癒し、フィナーレ」
参加者、ボランティア募集中 ボランティアは9時集合
- 12月1日(土)14時 森林未来塾 奥出雲町「森林経営の補助制度、NPOとの協働視察」
森林所有者、所有希望者対象
- 12月2日(日)10時 里山自然塾「里山素材のリースを作ろう」参加者募集中
- 12月8日(土)9時 里山子ども自然塾「山仕事体験」ボランティア募集中
- 12月8日(土)10時 飯南町間伐ボランティア ボランティア募集中
- 12月16日(日)10時 飯南町間伐ボランティア ボランティア募集中
- 詳細は、もりふれ倶楽部 野田、宮崎まで、お問い合わせください。

もりふれ倶楽部会報 NO.11

〒699-0406 松江市宍道町佐々布3352 ふるさと森林公園学習展示館内

もりふれ倶楽部 TEL(0852)66-3586 FAX(0852)66-3586

[メール morifure@coffee.ocn.ne.jp](mailto:morifure@coffee.ocn.ne.jp)

[ホームページ http://www.morifure.jp/](http://www.morifure.jp/)